

ラジオNIKKEI ■放送 毎週木曜日 21:00~21:15

マルホ皮膚科セミナー

2014年9月25日放送

「第77回日本皮膚科学会東京支部学術大会①

大会を終えて」

日本大学 皮膚科
教授 照井 正

はじめに

第77回日本皮膚科学会・東京支部学術大会を、今年2月15日と16日の2日間、東京国際フォーラムで開催しました。学会のテーマは「挑戦する皮膚科学」とし、いくつかのチャレンジを試みました。これまで、東京支部学術大会は、新宿にあるホテルで開催することが多かったのですが、より交通が便利な東京駅そばにある東京国際フォーラム

にしたのもチャレンジのひとつです。アクセスのよい会場にすることで、東京支部の会員はもちろんですが、他の地域の先生方にも多くご出席いただけるのではないかと期待し決定しました。あいにく、学会前夜から初日の朝まで何十年ぶりかの大雪となり、交通機関が麻痺して開催が心配されましたが、昼近くには天候が回復し、最終的に1,500人の先生方にご出席いただきました。

第77回日本皮膚科学会 東京支部学術大会

第77回日皮会東京支部学術大会
平成26年2月15-16日
東京フォーラム

会長 照井 正
事務局長 篠島由一
実行委員長 葉山惟大

第77回
日本皮膚科学会
東京支部学術大会
挑戦する
皮膚科学

2014年2月15日(土)~16日(日)
東京国際フォーラム ホールB

会長 照井 正 日本大学医学部皮膚科学系皮膚科学分科
事務局長 篠島 由一 実行委員長 葉山 惟大

【大会事務局】日本大学医学部皮膚科学系皮膚科学分科 第77回日本皮膚科学会東京支部学術大会事務局
〒100-8302 東京都千代田区千代田1-3-10 千代田ビル 1008号室
【問い合わせ先】第77回日本皮膚科学会東京支部学術大会事務局 株式会社マルホ 大会事務局
〒100-8302 東京都千代田区千代田1-3-10 千代田ビル 1008号室
http://77thjks.com/

東京支部の会員は約 3,600 人ですが、多くの先生がご開業されています。そのご開業の先生と次世代を担う若手の先生にも興味を持っていただけますよう、学会全体をアレンジしました。また、各施設の医学生や研修医が無料で学会に出席し、最先端の皮膚科学に触れることができるようにしました。また、最終日の午後、特別企画 2 で「皮膚科エキスパートナースを育てる」を企画し、各施設の看護師さんに参加していただきました。

日本大学と東京支部学術大会

まずはじめに、日本大学と東京支部学術大会の関係につきまして説明します。

学術大会冒頭の会長挨拶におきまして、「日本皮膚科学会・東京支部と日本大学皮膚科学教室の接点」と題したお話をいたしました。私は日本大学皮膚科の 6 代目の教授ですが、日本大学が東京支部学術大会を担当したのは、その前身であります日本皮膚科学会・東日本連合地方会を含めて、今回で 5 回目です。過去 4 回は次の通りです。

昭和 34 年第 22 回東日本連合地方会を三浦修先生が担当し、昭和 52 年第 41 回を森岡貞雄先生、平成 11 年の第 62 回東京支部学術大会を森嶋隆文先生、平成 16 年の第 67 回大会を鈴木啓之先生が担当されました。いずれの学会も天候にめぐまれ盛会であったと聞いています。

一般演題とポスター発表

次に今年、私が担当しました第 77 回東京支部学術大会の概要につきまして、ご説明いたします。はじめにお話ししましたように、それぞれのセッションで小さなチャレンジを試みました。

まずはじめに、一般演題とポスター発表です。

既に他の支部総会では採用されているのですが、すべての一般演題の発表者にポスター発表をお願いしました。プログラムの関係で興味のある演題を聞くことが出来ない場合でも、情報が得られるよう環境を整えました。若い先生や開業医の先生方のモチベーションアップが狙いです。

日本大学担当の東京支部学術大会

学会名	開催年	会長
第22回日皮会東日本連合地方会	昭和34年	三浦修 教授
第41回日皮会東日本連合地方会	昭和52年	森岡貞雄 教授
第62回日皮会東京支部学術大会	平成11年	森嶋隆文 教授
第67回日皮会東京支部学術大会	平成16年	鈴木啓之 教授
第77回日皮会東京支部学術大会	平成26年	照井 正

日本大学及び皮膚科学教室の黎明期

1. 日本大学創立(明治22年): 山田顕義 先生
(日本法律学校) (松下村塾出身の長州藩士、初代司法大臣として法典整備、国学院を創設)
2. 日本大学初代校長(明治23年): 金子堅太郎 先生
3. 日本大学初代学長・初代総長: 松岡康毅 先生
4. 日本大学専門部医学科創設(大正14年): 額田 豊 先生
(初代医学科長)
(大正14年 帝国女子医学専門学校(東邦大学医学部の前身)を創立)
5. 日本大学駿河台病院創設(大正15年): 額田 豊 先生
(初代病院長)
6. 日本大学医学部皮膚科泌尿器科学教室開設(昭和2年): 梅津小次郎 先生
(昭和15年第四代医学科長、昭和17年医学部昇格し初代医学部長)
7. 皮膚・泌尿器・性病科学教室の3科分離独立(昭和34年)



山田顕義



額田 豊 先生

ポスター会場を東京国際フォーラムの地下に設営し、和やかな雰囲気ですべての質疑応答が出来るようにドリンクと軽食を用意しました。また、参加者の投票によりポスター賞を決定し、懇親会で表彰しました。この賞で三人を表彰しましたが、そのうちお二人がご開業の先生でした。

チャレンジ・レクチャー

教育講演は、名称を「チャレンジ・レクチャー (CL)」と変更し、13の領域で企画しました。これまで、ある領域の一般演題と教育講演が別々の時間帯に行われることが多かったのですが、今回の学会では関連する一般演題とチャレンジ・レクチャーを同じ時間帯にプログラム構成し、各領域のエキスパートの先生方に講演していただきました。ご講演の先生方に、事前にお話し短時間で分かりやすく最新の情報を得られるよう、将来の皮膚科を担う先生や開業医の先生にとって今回の学会が、「少し背伸びして最新の知識を学べる場」になるような分かりやすい内容にさせていただきました。

特別講演

次に特別講演です。著名なお二人にご講演をお願いしました。

特別講演1では、冤罪事件として有名な足利事件でDNA鑑定を手掛けた日本大学の押田茂實名誉教授に、「最近の医療事故裁判とリスクマネジメントー知っておきたい実情と問題点ー」と題したご講演をしていただきました。医療事故に対する対処法につきまして、事例をいくつか紹介しながらお話ししていただきました。

特別講演2では、日本大学・生物資源科学部の上野川修一名誉教授から「腸、とくに共生する細菌とその免疫系について」と題して分かりやすくお話ししていただきました。近年リボソームRNAを分子生物学的手法により一気に解析する技術が開発され、腸内細菌に関する研究が急速に進歩しています。腸内細菌が皮膚の健康に与える影響や疾患の予防および環境要因としての食事に目を向けた話題でした。

特別企画

特別企画を2つ企画しました。

日本の皮膚科学の基礎研究は世界レベルに達しており、その研究成果は広く認められています。その一方で、東南アジアを含めた他の国々で一般的に使われている標準的な医薬品や医療器具のいくつかは、日本では使用できないという現状があります。特別企画1では、近隣の中国、韓国、台湾、タイから活躍されている皮膚科医をお招きしました。日本からは帝京大学の渡辺晋一教授に発表者の一人となっただき、他のアジアの国々の状況と照らし合わせて、世界の標準治療薬のうち日本では使用できない薬剤についてお話ししていただきました。

特別企画2では「皮膚科医とともに診療を担う皮膚科エキスパートナースを育てる」と題

するセッションを企画しました。事前に、東京都・臨床皮膚科医会および札幌市の先生方が所属する施設の看護師さんにアンケート調査をお願いし、その集計結果を紹介していただきました。また、皮膚科ナースの基本的な技術について熟練の看護師さんにご講演をお願いしました。学会参加者の各施設の看護師さんにお集まりいただき、皮膚科エキスパートナースの重要性や看護師さんが医師にどのようなことをのぞんでいるか、などについてお話ししていただきました。日常診療をより円滑に行うにはコ・メディカルの協力が必要なことは言うまでもありません。今後も同様の企画が必要であると痛感しました。

シンポジウム

シンポジウムは8つ企画しました。

初日には3つのシンポジウムがありました。午前中に「膠原病を見逃さないコツ」と題するシンポジウムを、午後には化粧品の有用性や化粧品科学の研究に関連して「診療に役立つ化粧品の知識」を、また、今日の社会の流れを意識して「高齢者医療」について、シンポジウムを企画しました。

2日目には5つのシンポジウムがありました。

午前中には「ヒスタミンと肥満細胞」、「知っておきたい新しい感染症」、そして学校保健に関連した「健全な肉体、健全な精神を作るためには？」と題するシンポジウムを、午後には「アトピー性皮膚炎」、「みんなで解き明かそうダーモスコピー所見」を企画しました。

スポンサードシンポジウム

スポンサードシンポジウムとして、掌蹠膿疱症と乾癬をテーマに2つ企画しました。初日のスポンサードシンポジウム1では「掌蹠膿疱症－基礎から臨床へ」と題するシンポジウムを企画しました。これまでの学会では掌蹠膿疱症に関連したシンポジウムはあまり企画されてきませんでした。今回、掌蹠膿疱症研究の最前線についてスウェーデンからお招きした Hagforsen 先生と愛媛大学の村上正基先生、聖母病院の小林里実先生にご講演をお願いしました。

2日目のスポンサードシンポジウム2は日本乾癬学会との共同企画で、乾癬教育プログラムとして J-PEARLS を紹介しました。若手の先生により早く乾癬診療に精通していただけるような内容でした。

その他のセミナー

他のセミナーですが、イブニングセミナーでは、乾癬治療に関連する生物学的製剤や外用剤について、また皮膚真菌症について専門の先生をお招きしてお話ししていただきました。米国ロックフェラー大学の Krueger 教授による乾癬の病態を明らかにするセミナーを含めて10のランチョンセミナーと4つのモーニングセミナーを企画しました。

懇親会

学術大会初日の夜、東京国際フォーラムの地下ホールで一般懇親会を開催しました。懇親会ではポスター賞を発表したり、各大学から若手の先生方を募り、大学対抗のゲームをしながら交流していただくよう企画をしました。

おわりに

以上、第 77 回日本皮膚科学会・東京支部学術大会の概要につきましてお話ししました。今回の学会では「日常診療に追われていると、昨日と今日は同じ一日のように思えてしまうが、少しだけ背伸びして学ぶと、翌日はこれまでと違う一日になる」こんな経験ができるような学会になるように企画しました。あいにくの大雪でしたが、私たちの意図が少しでも伝わり、記憶に残る学会であったことを祈るばかりです。